



やまと共創郷育センター NEWSLETTER

2021年春号



「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」は、本学が基幹校となり奈良工業高等専門学校とともに平成27年12月に開始、平成28年度からは奈良県立大学も参加し、以降3校が連携しながら事業実施してきました。COC+事業は令和2年3月31日を以て終了となりましたが、奈良女子大学やまと共創郷育センターは5年間で構築した事業協働機関とのネットワークを継続活用し、「地域志向科目」の開講を始めとする地域人材の育成に引き続き取り組み、コロナ禍におきましても、活動を続けてきました。

事業協働機関ならびに学内教職員の皆さまにおかれましては、引き続き当センターの活動へのご理解とご協力のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

令和元年度COC+ 事後評価結果について

COC+事業最終年度(令和元年度)の本学の取り組みに対する「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業委員会」による評価結果が届きました。

COC+事業は令和元年度で終了いたしました。奈良女子大学では事業期間を通じて築いた協働機関とのネットワークを継続活用し、引き続き地域人材の育成に取り組んで参ります。

【本学への評価結果(抜粋)】

「全体を通して、おおむね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。事業目標である『事業協働地域就職率』は、COC+大学に限ると増加傾向であり、途中の年度で目標を達成するなど、かなり健闘したこと、教育プログラムが体系的に編成され、学生の履修を促す取組が機能していることは評価できる。しかし、教育プログラムによる効果の把握、すなわち学生の地元志向意識向上の把握、客観的な測定方法・指標の設定に基づく学生の能力向上の把握が不十分である。また、事業の実施体制及び継続発展・成果普及に向けた、定量的・定性的・客観的なデータに基づいた把握・分析によるPDCAサイクルの構築、継続・発展のための資金確保も十分であるとは言い難い。補助期間終了後も、これらの課題への取組に向けた一層の努力が期待される。」

奈良経済同友会観光活性化委員会委員との意見交換会(10月)

奈良経済同友会観光活性化委員会は、奈良経済同友会に加盟する奈良県内企業・団体の役職者が委員を務め、民間目線での観光活性化への提言を行政に対して行なうことを目的に開催されるもので、令和2年10月9日(金)に開催された第14回委員会では「奈良に来てほしい人～若い女性が見る・感じる奈良の魅力～」というテーマのもと、本学学生3名が出席しました。

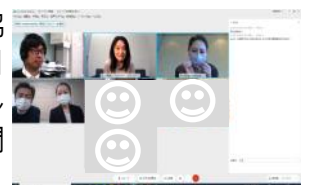
今回委員会に出席した学生は、県内出身者2名と県外出身者1名で、それぞれが奈良に対して愛着を持つだけでなく、県内での音楽イベントの開催や地元企業・店舗と協力して奈良に関するフリーペーパーの作成活動、授業活動の一環で優秀な奈良への提案プランを作成するなど、何らかの形で奈良県の活性に貢献する活動経験を有しています。

当日は、県内の情報通信業・メーカー・観光業・運輸業等、様々な企業・団体に所属する委員から、それぞれの業界の現状を絡めた奈良の観光活性に関する質問があり、それに対し学生達は各々の経験等に基づき意見を述べるなど、委員と学生との間で大変有意義な意見交換が行われました。



奈良県奈良しごとiセンター オンライン「奈良県企業説明会」を開催しました(11-3月)

やまと共創郷育センターは、COC+事業協働機関である奈良県奈良しごとiセンターの協力のもと、引き続き、11月以降の第1・第3金曜日の午後、オンラインで「奈良県企業説明会」を開催し、計9回にわたり、県内企業15社・奈良県から説明をいただき、123名の学生が参加しました。また、オンライン面接対策の一環として、説明会の後に30分程度のフリートークの時間を設け、学生は各企業等の人事担当者に自由に質問を行いました。



後期開講 地域志向科目 「なら学+ (プラス)」の授業を行いました (10 - 2月)

地域志向科目の1つである「なら学+ (プラス)」(教養教育科目)の令和2年度の授業が終了しました。この授業は、県内自治体・企業から多彩なゲストスピーカーを迎え、様々な視点から奈良の課題や取り組みについて学ぶことにより、問題解決力、提案力を養い、奈良はもちろんのこと、地元に戻っても活躍できる未来の地域リーダーの育成を目指しています。今年度も1回生を中心に全学部から179人の学生が受講しました。講義はガイダンスも含め15回にわたり、オンラインで実施し、第6回から第11回授業については、学生同士が十分に距離を取れる大教室へ移動し、キャンパス内の学生を対象に対面形式も兼ねたハイブリッド型授業へと発展させ、安全な環境を確保しつつも臨場感ある授業を実施することができました。毎回、授業の後半に学生からの質問コーナーを設け、学生はチャット機能を使ってゲストスピーカーへ質問し、オンタイムで質問への回答をいただくことにより、学生との双方向性を確保することができました。また、授業後では学生の意見、質問等をゲストスピーカーへも情報提供し、ゲストスピーカーからは、授業感想ならびに学生へのメッセージを配信し、授業の振り返りを実施しました。

この授業を通して、奈良の課題をあらゆる角度から知り、考え、課題レポート『奈良への提案』では、学生自身で調査し、課題を深く掘り下げ、実現可能な提案を作成することを目指しました。

なら学+ (プラス) 受講生 所属学部・回生

| | 文学部 | 理学部 | 生活環境学部 | 計 |
|-----|-----|-----|--------|-----|
| 1回生 | 45 | 19 | 51 | 115 |
| 2回生 | 11 | 10 | 11 | 32 |
| 3回生 | 8 | 11 | 3 | 22 |
| 4回生 | 3 | 3 | 4 | 10 |
| 計 | 67 | 43 | 69 | 179 |

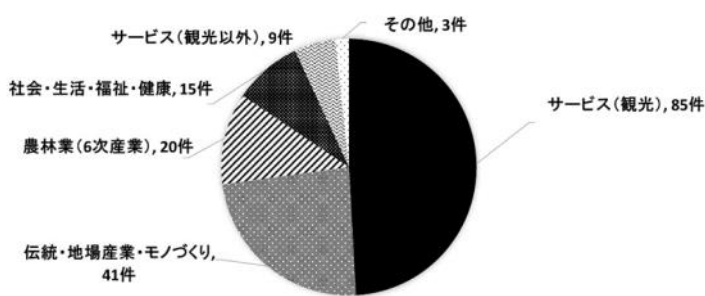


本学OGからも熱いエールをいただきました

「12の社会人基礎力の要素のうち最も身に付いたと感じている要素と、その能力の向上にこの授業の構成要素のどれが影響したか」を学生に尋ねたところ131人からの回答があり、授業の最終回では、オンタイムで結果を受講生と共有しました。

学生は、12の社会人基礎力の要素のうち「考え抜く力」の要素である「課題発見力」が身に付いたと回答したのが74人(56%)を占め、続いて「傾聴力」14人(11%)、「柔軟性」11人(8%)、「情況把握力」11人(8%)と自己評価しました。また「課題発見力」の能力向上に寄与したとする授業要素については「同じテーマに対して立場の異なるゲストから講義を受けた」「ゲストコメントなどのフィードバックを通じて他の人の考えや意見を聞いた」「毎回の授業で課題や疑問を見出した」でした。

『奈良への提案』のジャンル内訳



「課題発見力」

授業要素の回答者数(人)

同じテーマに対して立場の異なるゲストから講義を受けた 19人

ゲストコメントなどのフィードバックを通じて他の人の考えや意見を聞いた 18人

毎回の授業で課題や疑問を見出したこと 17人

その他(自分で課題を設定してその解決策を考えたなど) 20人

社会人基礎力の12の能力要素のうち、考え抜く力の構成要素である「課題発見力」が身に付いたと回答したのが74人(56%)でした

「なら学+ (プラス)」令和2年度版 小冊子『奈良への提案』を作成しました (3月)

令和2年度「なら学+ (プラス)」計15回の授業概要・学生レポート(抜粋)・講師からのコメントおよび学生の成果物である課題レポート『奈良への提案』を冊子にまとめました。学生へのアンケート調査分析結果も掲載しており、県内各関係機関に提供される予定です。



地域志向科目の実施報告

■コミュニティ・リサーチ/コミュニティ・アクション（文学部専門教育科目/地域志向科目）

本授業は、地域コミュニティの現状を理解するためのコミュニティ社会学の理論と方法を実践的に学び、それを通して、課題の解決の糸口となるアクション（PR コンテンツ制作や特産品開発、成果イベントなど）の企画・実践の過程を体験的に学ぶことを目的としています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、おもに「遠隔でのフィールドワークが可能か」をテーマとして実施しました。前期に開講したコミュニティ・リサーチでは、下市町奈良女子大学アクティビティセンターとオンラインで接続して、下市南小学校校舎活用に関する大学生の観点からの活用案を検討・作成しました。作成した案は下市町議会で審議され、承認された場合は学生達の案が実現に向けて動き出すこととなります。後期に開講したコミュニティ・アクションでは、下市町住民の方々にご協力いただき、テレビ会議システムを用いて対面・オンラインのハイブリッド型インタビューを実施し、地元住民との交流や地域振興の促進を図りました。



■サイエンス・オープンラボ（理学部専門教育科目/地域志向科目）

本授業では、理学部の学生が小・中・高校生を中心とする市民の皆様を対象に不思議で楽しい科学の世界を紹介する地域貢献事業、「サイエンス・オープンラボ」の企画・実施と事後評価を行います。地域貢献活動の一環として科学的な情報発信イベントの企画運営を行うことを通じて参加学生の専門の勉学へのモチベーション・コミュニケーション能力・自発性を高め、理学部に対する社会の期待に科学的な情報発信と人材育成の両面で応えることを目的としています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、例年とは異なり令和2年度はインターネットを利用したオンライン・オンデマンド形式での開催となりましたが、完成した各種コンテンツは家庭でも楽しく科学を学べる内容に工夫されています。公式な公開期間は令和2年11月1日～令和3年1月11日でしたが、ほとんどのコンテンツは下記サイトから引き続き閲覧できます。

▶ <https://www.ics.nara-wu.ac.jp/jp/event/science/2020/sol2020.html>



■地域連携運動実習（生活環境学部専門教育科目/地域志向科目）

身体活動は心身の健康や人と人との関係性に作用します。平成22年度から隔年開講している本授業では、地域の運動指導者や市民の協力のもと短期運動プログラムを立案・実施し、言語的/非言語的にかかわり合いを重視してきました。今年度は地域に実習場所をお借りすることができず、「きたまちエリア」に本学を出発・帰着とするウォーキングコースを作る内容としました。毎回の授業で、受講生たちは歩行コースを変えて距離や高低差、心拍数を測定し、傾斜地でのコースづくりに、快適・安全が求められること、また、挑戦の気持ちや達成感、視覚的な楽しみが得られることを見出しました。各自の考案したウォーキングコースを、コース概要、コース周辺の見どころ、各種測定データ、歩行時のアドバイスなどを盛り込み「マイコースレポート動画」にまとめました。



キャリアデザイン・ゼミナールB(52)「奈良の木 造形演習」(キャリア教育科目)

令和2年12月5日(土)に同科目受講学生の成果発表の場として、奈良女子大学内にて『鹿と木 マルシェ』が開催されました。このイベントは、奈良の木の魅力を地域の方や同科目を受講していない学生に伝えることを目的に誕生したもので、受講学生たちは大学と連携協定を締結している県最南部の十津川村特産の杉と檜で創った木工品製造用素材を用いた商品づくりから、イベント名やロゴの考案、広報、会場デザインを企画してきました。

5回目の開催となった令和2年度のマルシェは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、大学関係者のみを対象として開催されました。参加者は十津川村産の木材を用いて、木のアクセサリ、檜をカンナで削ってつくる香袋、杉の葉のクリスマス飾りなど、思い思いに作品づくりを楽しみました。参加者からは「クリスマス用の素敵な飾りができて楽しかった」、「木の香りが広がって癒された」、などと大変好評でした。

受講学生たちは、木の素材を知り木のある暮らしへの理解を深めるための体験と実践を通じた学習を通して、作る楽しさや喜びを他の人々と共有し、主体的に地域の課題解決に関わる力を身につけることが出来ました。



令和3年度新規開講 地域志向科目 「奈良を知る」が後期に開講します

令和3年度後期からいよいよ新規科目「奈良を知る」が開講されます。10-11月の土曜日2日間(予定)にわたり「奈良」をフィールドとして、地域社会の抱える問題の所在と背景および解決に向けた取り組みを具体的な事例を通して学びます。実際に現地に出向き、自らも課題抽出や解決策提案のプロセスに関与することにより、地域で活躍できる人材の育成を目指します。初年度となる令和3年度は、奈良盆地中央にある広陵町において集中授業を行います。(一財)南都経済研究所の協力を得て、1日目は広陵町関係者に対するヒアリング、竹取公園、馬見丘陵公園、特定農業振興ゾーンでのイチゴ栽培状況などの町内資源の見学を行い、2日目は調査分析に基づいた議論と提案書の作成、プレゼンテーションを行う予定です。

現地に足を運んで、専門家と一緒に「奈良」の本質に触れてみませんか。たくさんの学生の受講を待っています！

令和3年度に開講する地域志向科目について

「地域志向科目」とは、「奈良女子大学的教養」の理念に掲げられた問いのうち、“奈良で学ぶことを通じてあなたは世界にどんな貢献ができますか”“大学で学ぶことはあなたと未来の世代の人たちにとってどんな意味がありますか”を具体的に問いかける科目です。奈良というフィールドにおいて、“社会的実践に飛び込む”“本物にふれる”“他者と学ぶ、他者から学ぶ”などのアプローチを駆使することによって、問題を解決する能力を養い、さらに専門学の深い学びへとつなげます。

平成31年度入学者(編入生については令和3年度入学者)から、卒業要件として「地域志向科目」の中から1科目以上修得することが必要となっています。

令和3年度は、下記科目が開講されます。

| | 授業科目名 | 開講期 |
|---------------|---------------|--------|
| 教養教育科目 | 「奈良」女子大学入門 | 前期 |
| | パサージュ(39A) | 前期(前半) |
| | 奈良を知る | 後期集中 |
| | 環太平洋くろしお文化論 | 後期 |
| | なら学 | 前期 |
| | なら学+(プラス) | 後期 |
| 文学部 専門教育科目 | 文化人類学特殊研究 | 前期 |
| | なら学フィールドワーク実習 | 後期 |
| | コミュニティ・リサーチ | 前期 |
| | コミュニティ・アクション | 後期 |
| | なら学演習 | 後期 |
| | 地域探求実践演習 | 後期 |
| 理学部 専門教育科目 | サイエンス・オープンラボⅠ | 不定期 |
| | サイエンス・オープンラボⅡ | 不定期 |
| | 森林生物学野外実習 | 前期集中 |
| | 河川生物学野外実習 | 前期集中 |
| 生活環境学部 専門教育科目 | 地域居住学 | 後期 |



奈良女子大学 やまと共創郷育センター

〒630-8506 奈良市北魚屋東町 奈良女子大学コラボレーションセンター1階

TEL 0742-20-3989 FAX 0742-20-3993 Email: coc-yamato@cc.nara-wu.ac.jp